

# よりよい復興に寄与するかわまちづくりに関する一考察

## —久慈川・那珂川の緊急治水対策プロジェクトを事例にして—

An examination on river urban development that contributes to a better restoration  
—Emergency flood control project for the Kuji river and Naka river as the case example—

水循環・まちづくり・防災グループ 次 長 竹内 秀二  
 水循環・まちづくり・防災グループ 研 究 員 北澤 史  
 水循環・まちづくり・防災グループ 研 究 員 阿部 充  
 水循環・まちづくり・防災グループ 研 究 員 二瓶 智  
 水循環・まちづくり・防災グループ グループ長 阿部 徹  
 主席研究員 水草 浩一

### 1. はじめに

茨城県と栃木県・福島県を流れる久慈川と那珂川の流域は、八溝山地の東西に、丘陵、平野と川や海の大自然が広がり、農産物や海産物の収穫量も多く豊かな地域であり、自然に恵まれ、首都圏において貴重な場所となっている。

本研究では、久慈川と那珂川にて令和元年東日本台風緊急治水対策プロジェクトの推進と合わせた水辺利用を活かした地域振興の取組みについて考察する。

### 2. 頻発する水害

平成27年から令和2年の6年間で全国で国が管理する大河川の20水系で大きな被害が発生したため、令和3年6月時点で16件の緊急治水対策プロジェクトが進められている。そのうち令和元年東日本台風の被害に対応するプロジェクトは7件と最も多い。



図-1 東日本での緊急治水対策プロジェクト (出典：国土交通省 HP)

### 3. 緊急治水対策プロジェクトによる地域振興

この緊急治水対策プロジェクトは、国、県、関係市町村が連携しつつ、流域全体で再度災害防止のため、ハード・ソフト一体となった対策を概ね5~10年間で

集中的に行っていくものである。流域も含めた治水対策については、全国でも気候変動に伴い頻発・激甚化する水害・土砂災害等への対応として、防災・減災が主流となる社会を目指す流域治水として展開されている。流域における遊水・貯留機能の確保・向上、土地利用・住まい方の工夫を組み合わせ、多重防御治水を推進することで、次に大出水が起きても、安全・安心で快適な活力ある地域を持続的に発展させる力を継続して増大することが可能になる。

今後、この緊急治水対策プロジェクト等の取組みは、グリーンインフラや観光施策と連携させ、より快適な生活や地域振興につなげていくことが求められている。

### 4. 久慈川・那珂川の治水整備

那珂川では、昭和61年、平成10年に大きな水害に見舞われ、そのたびに復旧事業が実施されたが、堤防が無い地区も多くあったため、築堤や橋梁架け替えなどを中心に河川改修がなされてきた。

しかし、今回久慈川・那珂川においては、緊急治水対策プロジェクト(図-2)として、河道掘削や築堤だけでなく、霞堤の保全・整備、遊水地整備、遊水機能の確保・向上の検討、土地利用・住まい方の工夫、などを組み合わせた多重防御治水と関係機関等が連携し円



図-2 那珂川緊急治水対策プロジェクト (出典：国土交通省 HP)

滑な水防・避難行動体制の充実等の減災に向けた取り組みを両輪として推進している。令和6年度の完成を目指して、令和2年度から河川事業に着手している。

### 5. 久慈川・那珂川沿川のまちづくり

久慈川・那珂川の国管理区間沿川の12自治体で見ると、2020年から2030年の10年間で人口が8%減少するとの推計（国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」）がある。栃木県茂木町では、2015年から2020年の5年間で人口が12%減少している。このような中で地域の振興を図っていくためには地域の魅力を活用した観光などの交流人口の増加が重要である。

久慈川・那珂川およびその流域には、従来より自然環境や風景、文化財、温泉、スポーツ等の多くの観光資源が存在する（写真-1）。



写真-1 那珂川でのカヌー

現在、久慈川・那珂川沿川自治体で策定されている地域づくりにかかわる各種計画にも、久慈川・那珂川の魅力や資源等の利用が多く記述されている（図-3）。

これらの観光資源と河川の拠点を連携させることにより、交流人口を増やし地域の振興につなげていくことが重要である。



図-3 地域計画等への記載例  
（出典：常陸大宮市都市計画マスタープラン）

### 6. 緊急治水対策プロジェクトの推進と合わせた水辺利用を活かした地域振興の検討

4. 5. を踏まえ、久慈川・那珂川の親水性やスポー

ツ等の利用、景観、環境学習・体験等の観点から、検討地点として13地点を抽出した。

それぞれの地点の緊急治水対策プロジェクトのメニューを踏まえ、良好な水辺整備・利用に資するような河川管理施設（利用者導線確保の階段や坂路等）の配置について検討するとともに、堤内側（街中）の観光資源とを繋げることで、地域の交流を拡大していくことを検討した（図-4）。

また、大規模な河道掘削が必要な地点では、河岸部の掘削等を緩やかな勾配にすることにより、水辺との多様な生育環境の創出や環境学習の場等にも活用されることを検討した（図-5）。

更に各水辺の拠点をサイクリングやカヌーで繋ぐネットワーク化を図ることにより、上下流での、更には遠方からの交流人口の増加も図った。特に久慈川では緊急治水対策プロジェクトで堤防が整備されると、河口から直轄管理上流端付近までサイクリングロードとして繋ぐことが可能で、3つの自治体と3つの道の駅を結ぶルートになり、訪れる人たちの楽しみが大いに増大すると考えられる（図-4）。



図-4 河川の水辺拠点と治水整備

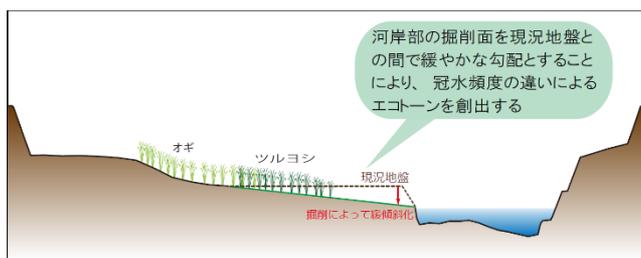


図-5 自然環境に配慮した河道掘削イメージ  
（出典：久慈川水系河川整備計画（大臣管理区間）変更）

### 7. おわりに

久慈川・那珂川では、緊急治水対策プロジェクト、更にはその先を含めた流域治水を推進している。多くの魅力を秘めた久慈川・那珂川流域で、より魅力ある水辺空間の創出、更に地域の観光資源等が連携することにより地域のまちづくり・賑わいの創出につながる可能性を示すことができた。早期実現を期待する。